

2024 年度事業報告書(案)

- 1、全体の報告(成果と課題)…1
- 2、事業報告…2
 - A ボランティアセンター…4
 - B フードバンク…6
 - C ユニバーサル就労支援…6
 - D 災害救援…7
 - E NPO活動推進センター…12
 - F とちぎコミュニティ基金…14
 - G 県北Vネット…18
- 3、財政・組織運営…21

1. 全体の報告 (成果と課題)

●能登半島地震の災害救援活動：日本社会が抱える課題が噴出した災害

2024年1月からの能登半島地震の復興支援活動と緊急救援活動を2025年度も実施した。さらに、9月21日に発生した豪雨水害では、再度の「能登水害救援」の活動を行った。ボランティア参加は760人(①226人：4/19-6/30、②374人：7/1-12/31、③160人：1/10-3/31)となった。活動は概ね隔週または月2回だったが水害後(②期間)は毎週に戻し、さらに1月からは月2回にした。

年度当初の4月から、穴水町から輪島市町野町に活動・宿泊拠点を移動した。ボランティアが全くいない地区であり、片付け、足湯、まけないぞう、仮設住宅の防寒対策、居住環境改善の活動をおこなった。また7月からの宿泊拠点である金蔵地区での復興支援として、草刈り、援農、署名集め、意見書の提出を国・県・輪島市に行った。

(成果)

継続してボランティア募集と救援活動ができるNPOは関東全域でも唯一であった。また復興支援として住居・集落自治の問題にも関わることができ、長期の復興を見すえた伴走支援ができた。

(課題)

- ・ボランティアが少なく、災害ボランティアセンターの機能が低調であった。さらに地方政府に「ボランティアとの信頼感」がなく、様々な場面で「政府・行政による災害救援の課題」があった。また、災害NPOの「SNS世論」形成の失敗もあり、今後もマスコミの低調とSNS伸長傾向が続くことでボランティアの確保が課題になる。
- ・本会単独での活動には職員が不足していた。参加ボランティアの高齢化も顕著で、特に若者はSNSしか見ていないので情報が届かず、活動者が50歳代以降の社会人になりがちであった。
- ・「災害＝外力×脆弱性」として分析すると、脆弱性として①日本社会の貧困化・高齢化、②公(基礎自治体)の縮小、③インフラ整備ができない(土木・建築等の業者がいらない)、④災害と社会福祉が連動していない、⑤災害法整備の不作为、⑥SNS社会＝噂社会＝マスとのコミュニケーションが成り立たない(世代間で断絶)、⑦地球温暖化、がある。

●とちぎコミュニティ基金：助成業務を外部化し業務の安定化、効率化を図った。

とちぎコミュニティ基金(以下とちコミ)には「助成」「合同ファンドレイジング」「プロジェクト」の3つの枠組みがある。さらに活動は、大きく資金調達(ファンドレイジング)と助成事業(資金分配)の2つの業務がある。寄付を集めて配るには大きな労力が必要であるが、慢性的な人手不足のため今期から、配る＝助成事業を外部団体に委託した。

- ・「たかはら子ども未来基金」＝とちぎユースサポーターズネットワーク
- ・「花王ハートポケットクラブ助成」「とちぎ夢基金」「子どもSUN SUNプロジェクト助成」の3事業＝かぬま市民活動サポーターズ

(成果)

- ・外部委託により助成事業の実務（募集、審査会の組織、審査、報告）が大幅に軽減された。
- ・県内の市町NPO支援センターのスタッフに中間支援の業務を伝えることができた。また通常は市町村内のNPOを対象にしているが広域化を図ることで各NPOの中間支援組織がつながり、ノウハウの共有ができるようになった。

(課題)

- ・ファンドレイジングの強化ができなかった。また「合同ファンドレイジング」（チャリティウォーク、サンタdeラン）も「プロジェクト」も寄付が集まらなかった。不況・物価高等が重なり大幅な寄付額の減少があった。
- ・新たな助成プログラムの開発やHPの充実、広報によるブランド化の促進にも着手できなかった。
- ・特に合同ファンドレイジングの事務局体制が弱く、スタッフの不足があった。

●公開質問状検討会：「ドボカシー活動」もう一つの方法を模索

11/30の栃木県知事選、宇都宮市長選にあわせて各候補者にNPOの知見を生かした公開質問状を出す検討会を主宰した。8月～10月にかけて質問状を作成し、10月末にWEBで公開した。1月からはフリースクールなどの個別のテーマについて署名活動や議員等への政策提言等をおこなった。

(成果)

- ・NPOのまとめりとして県・市に政策を問うのは初めてであり、書いた人/NPOにとっても意義深い画期的な取り組みになった。NPO等の活動は自治体の政策になって初めて普遍化する。今後も同様な動きが必要との認識になった。

また「外国人の医療・生存権問題」は全国的な運動にしていくものであり、すでに他県のNPOにより同様の公開質問状が作られている。

- ・NPOは小さな隙間のオタク団体だが、やっていることや情報は先進的であり、NPOが感じていることは今後の自治体の政策のテーマとなる。また、グローバル化や新自由主義に対抗する手法として欧州では“**ミュニシパリズム(自治体主義)**”が実践されているが、その一環とすることもできる。

今回は首長候補者への質問だったが、県議・市議には本会「とちコミSDGs通信」で全部情報提供している。自治体の議員それぞれには政策形成能力はあまりないものと思われるが、今後は専門家としてのNPOがそれなり形にまとめていき、議員の政策形成のブレインになっていくことが望ましいかもしれない。

(課題)

公開質問状はだしたものの、今後の**動き方、交渉の仕方がわからない**。また、15の質問と回答のうち、質問によっては署名、陳情・請願などの方法をとる必要がある。さらに、2年後の統一地方選にも実施していく予定である。

●ラジオ等、若者が携わる活動の促進：それぞれの関わりと「主体化の差」で成長がちがう。

学生など若者の成長と人材確保のために、ラジオ学生（広報）やアルバイト、インターン学生と仕事をしていく場面を積極的に設けた。動機付けや本人の社会問題への関心により成長は様々だが、時々NPO/NGOスタッフに向いている学生もいる。今後も試行錯誤しつつ人材育成と人材発掘に努める。（以下は本会プログラムと傾向である）

(傾向)

- ・ラジオ：広報としてのラジオにのみ関心がある傾向。取材は頑張るがそれ以上はやらない、ボランティアは誘ってもしないことが多い。
- ・アルバイト：総務系業務を淡々とやり事務局の戦力になっている。関わりが深いのでボランティアもする時がある。
- ・インターン生：ボランティアベースの関わり。サンタdeラン当日ボランティア、能登ボラ事務局、SAVEJAPANボランティア参加、医療相談会ボランティア&取材など、自発的に活動に参加した。
- ・Vレンジャー：ほぼ自主活動、報告・連絡・相談はない。

2月に上記の人が集まり若者会議を実施した。発表で活躍したのはインターン生であった。チームでリーダーシップのトレーニングをしていくことが重要と思う。

●フードバンク総合相談支援：相談支援体制の再構築と、他団体・他機関との協働が必要。

フードバンクで食品提供と生活相談をしたのは799世帯2,967回になった。一方で物価高と米価高騰で食品の確保ができにくくなり、2025年1月から食品配布対象者（回数）の見直しを行った。また、フードバンクうつのみやとの役割分担を行い「相談支援を重点的に行うフードバンク」として年度末から相談支援の方法の見直しを行った。

公開質問状検討会としてフードバンクからは3つの質問を行った。①生活保護の担当者の「社会福祉士の有資格者を配置」について、②市役所での生活保護制度の情報提供の義務付け、③食品ロス活用について企業・行政・NPOとの協働を行う、の3つであった。

（成果）

- ・宇都宮市の重層的支援体制整備事業（エールU）での本会の総合相談支援の評価が高まった。UWにもつなげる動きも起きてきた。

（課題）

- ・困窮者の激増に追われていたが年末からは支援体制を見直した。
- ・相談の内容が複雑化、障害・疾病等の課題を抱える人も増えている。
- ・結果的に役所・社協との情報共有、協働が必要であるができていない。

●ギアが上がらないユニバーサル就労ネットワーク栃木（UWN 栃木）

今年度UWN栃木に相談したのは12人で、就労1人、就労継続支援事業所B型2人、職場見学2人、障害者支援機関との連携3人、会員との連携1人、就労体験参加1人だった。利用者の就労体験先となる認定就労訓練事業所登録は2か所増加したが、会員団体は増えなかった。フードバンク以外からの相談は増えたが、利用者開拓のための活動はできなかった。営業担当スタッフの成果が上がらないまま今年度も半期が過ぎてしまった。営業担当スタッフ退職後はライオンズクラブや県南地域を中心に福祉課、社会福祉協議、ハローワークなどを訪問し、UWN栃木の取り組みに関心を示していることから、今後の連携が期待できる。現時点ではフードバンク相談員がUWN栃木相談員を兼務している。フードバンクに訪れる人の対応に追われ、利用者開拓の取り組みができなかった。相談支援員、伴走支援員を採用し、より活発に活動を行う体制づくりが必要である。ユニバーサル就労ならではの業務分解やステップアップの仕組みを企業・団体内に広めることで、働きづらさを抱えて悩んでいる人の就労への一歩を作り出す。

●県北ボランティアネットワーク：年回70回の地元密着型Youtubeにより支援者が増えた。

フードバンク県北は、那須地域のヨークベニマル7店舗でフードドライブを開始した。毎月、1店で段ボール1箱（5kg）程度の食品が集まった。また「奨学米・備蓄米」を申請し支援を必要とする家庭へ安定的に食料を提供できる仕組みを確立した。

子ども食堂を週3回（年150回）実施し、子どもや地域住民が集える居場所づくりを行った。さらに体験の貧困をなくすため、子どもの体験活動を月に2回行い、真心を込めた支援を粘り強く続けた。

さらに「活動の見える化・広報力の向上」を行って、年間70回のYouTubeやInstagramブログなどSNSでの広報活動を行ったことで情報発信力が高まった。その結果、新たな人がつながり、応援してくれる人が増えてきた。今後も「県北地域のインフルエンサー」として、福祉やボランティア活動の楽しさややりがいを伝えていく。

課題としては、今期で3年続いた「第3の子どもの居場所運営事業」の助成金が終了したことである。助成事業収入分を補填する財源は得られていない。今後県北事務所の内部留保を消化しながら寄付や助成金などの財源を確保することが必要である。

2. 事業報告

A.【ボランティアセンター】

(1)総合相談事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」SOSニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別SOSの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

① 総合相談支援センターの運営

「独立型社会福祉士事務所とちぎボランティアネットワーク」として総合相談支援を行った。行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどとともに、食品を提供しながら困りごとを聴きだし解決に導く支援を提供してきた。今期の支援件数は708件（世帯）延べ2534回になった。コロナ禍を経てあらゆる世代、年齢、階層に困窮状態が広がっている。特に、世代を超えた女性の困窮状態が強まっている。その生活再建のきっかけとしても我々の相談支援は定着している。

【表1 相談者の状況のまとめ】

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ()は住所不定	世帯の人数	男/女
2012年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2人:5、3人以上:2	22/8
2013年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2人:14、3人以上:5	28/18
2014年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2人:11、3人:6、4人:3、5人:5、6人:1、7人:3、10人:1	106/29
2015年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2人:25、3人:11、4人:7、5人:6、6人:4、8人:1	118/47
2016年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2人:33、3人:10、4人:10、5人:3、6人:1、7人:1、10人:1	124/61
2017年度	572	47.7	248	182	177/15 (29)	単身:158、2人:35、3人:11、4人:11、5人:6	160/61
2018年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身:218、2人:49、3人:19、4人:9、5人:4、6人:4、7人以上:1	217/87
2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身:271、2人:51、3人:26、4人:13、5人:3、6人:2、7人以上:0	261/105
2020年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身:368、2人:74、3人:36、4人:10、5人:4、6人:0、7人以上:3人	340/155
2021年度	1658	138.25	542	290	514(28)/28 (5)	単身:377、2人:75人、3人:62人、4人:17人、5人:5人、6人:2人、7人以上:4人	353/189
2022年度	2304	192.0	649	333	600(30)/49(11)	単身:427、2人:114、3人:59、4人:25、5人:15、6人:4、7人以上:5	407/242
2023年度	2967	247.25	799	470	738 (25) /61(10)	単身:527、2人:133、376、4人:33、5人:21、6人:4、7人以上:5	467/332
2024年度	2534	211.17	708	383	686 (22) /22 (5)	単身:504、2人:114、3人:50、4人:24、5人:12、6人:1、7人以上:3	439/269

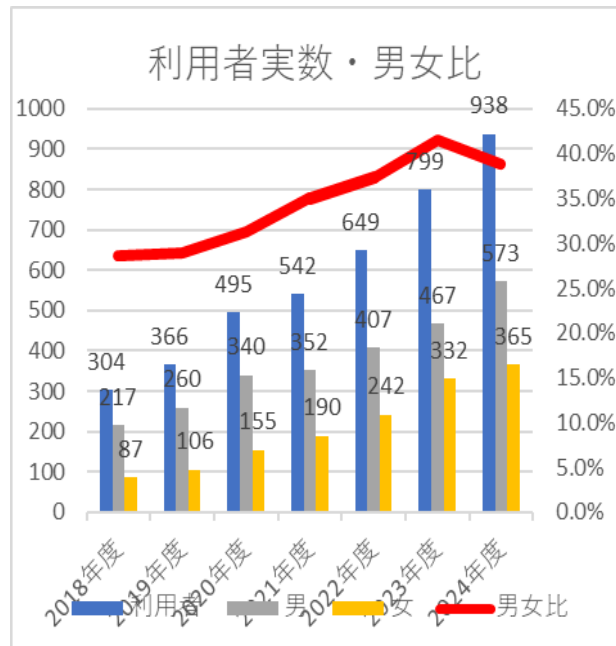
【全世帯】938世帯 ●住居なし:32世帯 ●女性の相談者:365世帯

●主な困窮の内容（複数）仕事探し・失業・就職:563、病気・健康・障害:196、住居:21、金銭管理・所持金なし:649、精神疾患人間関係など:218、日々の生活(低211.17年金):788、債務(家賃滞納など含む):149、子育て・介護:50、DV・離婚など:83

●生活保護の世帯数/生保利用中:220世帯(人)23.5% 申請手続き中:93世帯9.9%

●本会までの経路/自治体(生活福祉課・子ども家庭課・保健所など):2267 社協(県内社協含む):125 宮ハローワーク:17 地域包括支援センター:23 NPO:8 ネット・テレビ:36 その他:101

表2 食品利用者の推移



② コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省**社会的包摂ワンストップ相談支援事業**を一般社団法人社会的包摂サポートセンターを通し「コールセンター栃木」の支援をした。栃木では**28人のスタッフ**で**年間1841件の電話相談**に対応した。そのうち同行支援の必要があるものについては、継続相談員が直接面会をするなどの同行支援をおこなった。

（2）ボランティア・コーディネーション事業

（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

①Vレンジャー

2019年から学生・若者のボランティアチームとして「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくす活動をしている。今期は主催イベント2回、年間で計15回の会議をした。夏にデイキャンプ、冬に宿泊活動を実施した。他団体主催の企画への参加もした。3か所の子ども食堂のボランティアもメンバー内で誘い合いながら活動した。現在は15人が活動している。

企画名	日程	参加者	ボランティア参加者
駆け回ろう 夏企画 2024	8/28	子供：7人	14人
寒さに負けないっ！冬のお泊り会	3/1-3/2	子供：18人	13人

（3）講師派遣事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は13回（聴講数のべ411人）で講義回数聴衆は前期と同様であった。講義内容は、子どもの貧困、フードバンクが多かった。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	8	4/11～7/5	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野(小沢)	64

2	1	10/5	・「地域福祉のとりくみ」	NPO 法人まごの手	佐野	矢野	30
3	1	10/26	地域包括連携士養成研修	済生会宇都宮病院	日光	小澤	42
4	1	11/20	・中央ブロックケアマネージャー総合 研修講師（小）	地域包括支援センターきよす み	宇都宮	小澤	70
5	1	11/30	・宇都宮生健会学習会講師（小）	宇都宮生活と健康を守る会	宇都宮	小澤	45
6	1	12/17	独協看護講義（矢）	獨協医科大学看護学部	壬生	矢野	160
計	13						411

B. 【フードバンク】

(1) フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（F B）活動は、直接支援を求める人の数はP3 に記載されている通りだが、増える相談者に対して聞き取り対応だけで精一杯の状態になり、十分な対応ができない状態になってしまった。相談、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

生活困窮者、子どもを持つひとり親対など生活が苦しい人に対し、食品配布会を**2回実施**し、**80世帯**に配布した。物価高騰の影響などで今後も困窮する人が増えると予想される。**ボランティア、食品、資金の調達**が必要である。

① フードドライブの実施、きずなボックスの設置

フードドライブ（以下F D）の食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等に設置した。一定の宣伝効果はあるが、食品受取は管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、食品回収人員等に課題がある。

また、**FD**を定期的の実施した（とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、イベントなど）。市内・光琳寺では毎月1日に境内で行うラジオ体操時にF Dを実施した。

② 各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜**フードバンク県北**＞支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第2土曜日に食品配布を実施。

＜**フードバンク日光**＞毎月第1金曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を4回実施。

F B日光会議：12回 4/5、5/10、6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/7

C. 【ユニバーサル就労ネットワーク栃木】

(1) N P O法人ユニバーサル就労ネットワーク栃木（UWN栃木）の運営（生活困窮者の支援）

UWN栃木は「中間的就労事業所」を県内に増やしていくために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。2019年から本会、ふれあいコープ、とちぎコープの3者を中心に共同事業として実施している。本会は特に相談支援を担った。

UWN栃木の課題は利用者、受け入れ企業、会員団体が増えていかないことである。さらに、相談支援や営業・広報活動をするスタッフが採用できず、十分な支援活動ができていない。宇都宮市の生活困窮者自立支援事業・就労準備支援の受託は難航することが予想されるため、活動に協力的な栃木市との連携を図る。(以下、相談者の概要のみ記載する)

OUW 相談支援の現状 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

	項目	状況
1	人数・件数	相談数：12 人、67 件（複数回の相談支援）
2	性別・割合	男 5 人（42％） 女 7 人（58％）
3	年齢（21-70 歳）	① 20 代 3 人（25％） ②30 代なし③40 代 5 人（42％） ④50 代 1 人（8％） ⑤60 代 3 人（25％）
4	就労状況	無職：9 人（75％） 有職：3 人（25％）
5	経路	HP：4 人、FB：4 人、他 UW 事業所：1 人、弁護士事務所：1 人、就労移行支援 1 人、市社協 1 人
6	状況(3/31 現在)	就職 3 人、継続 5 人、中止 3 人、保留 1 人
7	理由(主訴)	1) N.A さん（60 代女性）夫からの DV で別居中。障害年金と婚姻費用で生活。B 型事業所の見学に行きたい。→体調を見ながら進める。 2) T.Y さん（20 代女性）正社員として勤務したがうつ病で退職。現在はアルバイト。→面談 1 回実施後は音信不通 3) W.T さん（40 代男性）単発の仕事でつないでいた。社交不安障害の診断あり。→グループホーム世話人をしながら自力で資源回収の仕事に就いた。（電話での聞き取り） 4) T.F さん（40 代女性）引きこもり支援を受けカフェで週 1 回お茶出しの仕事をしている。社交不安障害の診断あり。→面談 3 回、見学 1 回実施。自力で仕事を探すと連絡があった。 5) M.H さん（60 代男性）生活保護利用。頓服の抗不安薬を処方されている。働きたいがふらつきなどがあり一般的な就労は難しい→11 回の面談、電話連絡の後、UWN が紹介した就労継続支援 B 型事業所への通所を始めた。定期的に報告の電話が入る。 6) Y.K さん（40 代男性）身体障害あり市役所勤務だったが退職。弁護士事務所からの紹介→6 回の面談、メール連絡実施。UWN 会員団体での通所が予定されている。 7) K.A さん（40 代男性）パワハラを受け退職。その後仕事が決まらない。→面談 1 回実施。通勤を希望しているため面談を継続する。 8) M.N さん（40 代女性）身体、知的、精神の手帳所持、仕事が決まらず、借金もある。→メール連絡 3 回。ハローワーク等支援機関を利用することを提案。その後返信なし。 9) T.M さん（50 代女性）保育士の仕事をしていたが、胸郭出口症候群になり腕の痛み、しびれが出て退職。子供が 2 人いるひとり親。現在は児童手当、児童扶養手当、貯金で生活。→以前知人に紹介された施設に声をかけてみる。しかし、重いものは持たないなど配慮ある職場で働きたい。 10) K.T さん（20 代男性）高校中退後、職を転々としてきた。窃盗を繰り返しており、窃盗症が疑われる。→仕事をしたい意思はあり、クリーニングの仕事はどうか聞くと興味を示した。 11) J.F さん（60 代女性）社協からの相談。長年仕事をしておらず、困窮状態。40 代の子どもと同居。。→面談見学実施したが、体調の悪化により就労体験は保留。 12) T.A さん（20 代女性）就労移行支援事業所相談員より依頼。コミュニケーションにニガテ意識あり。認知症の片野とかかわりを学びたい。→ふれあいコープグループホームにて 5 日間の体験を実施。「もう少し人に慣れたら働いてみたい」

D. 【災害救援・復興支援活動】

(1) 救援・復興支援事業（災害救援事業）

日本国内での災害に対し調査・派遣活動を行なった。今期は能登半島地震および能登水害の救援と復興支援、および山形水害の調査活動をおこなった。

①能登半島地震、能登水害の救援活動と復興支援活動

のべ 760 人のボランティアが現地で活動した。派遣形態・目的等の違いから 1 期（4-6 月）、2 期（7-12 月）、3 期（1-3 月）に分けて報告する。活動資金は共同募金会・ボラサポ 2 回、日本財団 1 回の助成を受けて実施した（総額・約 510 万円）。

■第1期(4/19-6/30)「奥能登・週末ボランティア派遣活動」

(1) 週末ボランティア・バスの運行：10回

毎週末、栃木県宇都宮から輪島市町野町へ2泊3日のボランティアバスを運行した。栃木県内からだけでなく首都圏方面からの参加も見込んでバスの運行時間を決めた。ボランティア募集・バス運行の事務局体制の整備を臨時職員を採用して行った。2泊3日の活動だが、現地の活動時間は正味1日半であった。

(2) 活動

輪島市町野地区で以下の3種類の活動を行った。

- ①倒壊家屋からの荷物の取出し、ブロック塀の解体と撤去、農機具・作業工具の取出しなど
- ②「足湯ボランティア」による仮設住宅集会所、集落集会所の訪問
- ③「援農ボランティア」遅れている農作業の補助、集落全体での草刈(道普請)、寺院の草刈

町野地区に隣接する孤立地区の珠洲市真浦町や能登町柳田地区も片付けボランティアを実施。

(3) 成果と課題

(成果) ○ボランティア活動人数 120 人、のべ 226 人 ○集会所で足湯・お茶会等：のべ 22 回 (対象のべ 420 人、実数 60 人) ○援農：12 回 (対象数 22 人、実数 6 人) ○作業：34 件 (対象数 51 人、実数 31 人)

	人	のべ	活動/何件、何したか
チーム A 4/19-21	9	18	●【足湯ボラ・お茶会】町野第1仮設・集会所 ●【作業7件】①ブロック塀解体、土嚢袋に詰める作業 ②解体家屋から畳、家具、引き戸等撤出 ③倒壊家屋から重機を使つての工作機械の救出、木材分類、仏壇移動 4/21 ④倒壊家屋から農機具救出 ⑤半壊家屋内の家具の整理・運搬、思い出品の取出し ⑥倒壊家屋内からタンス・衣類を運搬 ⑦納屋2階からフォークリフトで荷物を下ろす作業
駐在チ-ム 4/22-26	2	10	【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所、曾々木集会所 ●集落ごとの避難所(集会所)への足湯・サロンの営業活動。自治会長、地元支援者、行政機関との挨拶・顔つなぎ。災害 NP0 との意見交換と宿泊・作業の備品の整備など。
チーム B 4/26-28	11	22	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所 ●【援農1件】パイプハウス・花卉農家支援 ●【作業2件】①重機での納屋の農機具取り出し、②半壊家屋2F 屋内ブルーシート張り
チーム C 5/3-5	13	26	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設、曾々木集会所 ●【援農1件】パイプハウス・花卉農家支援 ●【作業4件】①東大野地区・ブロック塀解体・運搬、②時国地区・ブロック塀解体・運搬、家具の移動(2件同時並行で実施) ③金蔵地区・母屋から納屋へ家具と金庫の移動 ④東大野地区：ブロック塀の解体、崩し、運搬
チーム D 5/10-12	11	22	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設、曾々木集会所 ●【援農1件】パイプハウス・花卉農家支援 ●【作業4件】①珠洲市真浦・ホテル海楽荘の冷蔵庫と畳撤出。③珠洲飯田の処分場へ運搬。②能登町柳田・半壊家屋の家具取り出し ③能登町柳田・納屋の撤去作業
駐在チ-ム 5/13-17	2	10	●【足湯ボラ・お茶会】曾々木集会所、金蔵集会所 ●【援農1件】パイプハウス・花卉農家支援 ●集落ごとの避難所(集会所)への足湯・サロンの営業活動、災害 NP0、仮設住宅住民との関係づくりなど。
チーム E 5/17-19	13	26	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所：子どもの居場所、星を見る会 曾々木集会所：蓄音機で昭和メロディー ●【援農3件】①パイプハウス・花卉農家支援、②③金蔵地区集会所周辺：草刈2日間 ●【作業1件】①能登町柳田地区：解体する集会所の片づけ
チーム F 5/24-26	9	18	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所、金蔵集会所 ●【援農2件】パイプハウス・花卉農家支援 ②金蔵地区：草刈 ●【作業3件】①能登町大川：水路の崩れた石垣撤去 ②町野町粟蔵：家財撤出、③町野町鈴屋：農家納屋の整理
チーム G 5/31-6/2	10	20	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所、曾々木集会所 ●【援農1件】パイプハウス・花卉農家支援 ●【作業5件】①全壊した納屋から輪島塗の食器取出し ②雨漏り家屋の畳等撤出、③家具の運搬 ④金庫を壊し貴重品の取出し、⑤仏壇から思い出品の取出し
チーム H 6/7-9	15	30	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所、金蔵集会所 ●【援農1件】パイプハウス・花卉農家支援 ●【作業2件】①もとやスーパー住宅の片付けと家財取り出し、②倒壊ブロック塀撤去
チーム I 6/14-16	10	20	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所、金蔵集会所 ●【援農1件】金蔵地区：草刈道普請 ●【作業4件】①里町ブロック塀解体・撤去、②珠洲市真浦：集会所の片付け掃除、③珠洲市真浦：井上片付け家具取り出し、④町野鈴屋：家財出し
チーム K 6/28-30	15	30	●【足湯ボラ・お茶会】第1仮設集会所、曾々木集会所 ●【作業4件】①東大野：納屋の米蔵運び出し、②東大野：半壊家屋のタンス・荷物運びだし、③東大野：タンス運び出し ④粟倉：蔵からの什器取出し
合計	120	252	●集会所で足湯・お茶会等：のべ 22 回 ●援農：12 件 ●作業：34 件

(成果)

2泊3日でも現地の滞在時間(活動時間)は正味1日半であり、片付け等の作業が十分に行われたとは言えない。しかし、人数の確保と定期的な訪問することで現地の災害 NGO や地元住民・関係機関・団体への周知はが行われることでの安心感や継続性による期待感が醸成された。

一方でボランティアセンターが地元(町野町)にないことや、住民の大半が市外に転出していて週末に自宅に戻って片付けていることから、住民との片付けニーズのマッチングがなかなかうまくできない状況だった。その意味では「毎週末に定期的に一定の人数が作業する」ことは、現地に「当てにされる」活動となったと思われる。

る。

足湯等での仮設住宅集会所訪問では、ボランティアがいない中で孤立感や「見捨てられ感」がある奥能登にあって、週末のボランティアの訪問が一縷の望みとなった。足湯の「つぶやき」のメモにも「こうして来てくれることに感謝しかない」などの感想も多数あった。

また子供にとっても、大変な親や大人の状況を見聞きしつつ、転出していった学校の友達などのこともあり、寂しく、伸び伸びとできない状況があったが、栃木からの大学生ボランティアと遊んだりすることが一種の気晴らしになっていたと思われる。

家の片付けも公費解体も進まない状況で、農業など基幹産業の再開・継続も課題であった。遅れている農作業の補助のボランティアや集落全体での草刈(道普請)、檀家も住職も不在のお寺の草刈りボランティアを行った。

また、町野町は隣接する孤立地区の珠洲市真浦町や能登町柳田地区も生活圏であり、近隣のボランティアが来ていないことから、災害 NGO 結のコーディネートで片付け等の支援を行った。

(課題)

①ますます少なくなる「外からの応援ボランティア」

復興バネなど災害時に特有なガンバリは、外からの支援者などボランティアが多くを担っている。しかしこの地区では発災当初から外からの人的支援が少なく、「町野にこだわる人」の絶対数がすくない。さらに今後ボランティアが減ることで、孤立感や閉塞感がさらに深まるだろう。イベント持ち込みボランティアを「町野にこだわる人」にしていく仕掛けや努力が必要である。

①家が直らないことによる、今後の人生設計が不安・未決状態

家の「被害状況」がその後を既定している。仮設にも入れない程度の被害だが、直す自己資金もない人がある。その人たちの把握と、その家の応急的な住居修復が必要である。それらがなされると「残された人生」の有意義な計画をする時間も確保されない。

②低所得・低年金による生活困窮

国民年金がほとんどで低年金であることから、出費を抑えた暮らしを余儀なくされている、しかしムラ社会の濃密な人間関係のなかで、本音は子供などの親族にしか言えない。貧困・困窮化が増えるが社会保障以外の経済的支援が必要になる。

(今後の活動のアイディア)

①災害で広がったボランティア・NP0 など全国の関係人口をつなぎとめる定期イベントの開催と、それにとともなう関係人口の増加を促進する。

②工務店、建築士、弁護士等の専門家と連携した個別の居住支援が必要である。災害ケースマネジメントやケースワークの手法を普及する。

■第2期(7/1-12/31)「奥能登・週末ボランティア」「奥能登水害ボランティア」

(1) 週末ボランティア・バスの運行：10回

月に2回、週末に栃木県宇都宮から輪島市町野町へ2泊3日の月1回のボランティアバスと月1回のワゴン(レンタカー)で往復した。年度末まで月2回の予定だったが、9/20に能登水害があり救援活動のため9/21～12/31までは毎週末バスやレンタカーでの運航便を出した。

(2) 活動

輪島市町野地区で以下5種類の活動を行った。

- ①水害被災家屋の土砂・流木の撤去、清掃、荷物の取り出し。
- ②ビニールハウスからの土砂の撤去、清掃。農地の流木の撤去・復旧、側溝の泥の撤去
- ③倒壊家屋からの荷物の取出し、ブロック塀の解体と撤去、農機具・作業工具の取出しなど
- ④「足湯ボランティア」による仮設住宅集会所、集落集会所の訪問
- ⑤「援農ボランティア」遅れている農作業の補助、集落全体での草刈(道普請)、寺院の草刈

(3) 成果と課題

(成果)

○ボランティア活動人数 187 人、のべ 374 人 ○足湯・お茶会など：のべ 35 回 (対象のべ 280 人、実数 60 人) ○援農：12 回 (対象数 22 人、実数 6 人) ○作業：34 件 (対象数 51 人、実数 31 人)

	人数	のべ	活動/何件、何したか
①ワゴン 7/12-14	7	14	●【足湯ボラ・お茶会・3件】・第1仮設、第2仮設集会所、曾々木 ●【援農・1件】町野町金蔵：草刈り ●【作業2件】町野町麦生野：Nさん家財出し。町野町鈴屋・Iさん片付け
②バス 7/26-28	11	22	●【足湯・お茶会・1件】曾々木集会所 ●【援農・1件】町野町金蔵：草刈り ●【作業5】(町野町粟倉：薪の積みなおし、町野町広江・Tさん：荷物取り出し、Tさん：ピアノ移動、町野町鈴屋：Iさん/荷物取り出し、町野町佐野：Aさん家具荷物取り出し

③ワゴン 8/9-12	8	16	●【足湯・お茶会・1件】金蔵集会所 ●【作業2件】「金蔵万燈会」準備の瓶洗い・真浦海岸の清掃
④バス 8/23-25	14	28	●【足湯2件】第1仮設、第2仮設 ●【援農・1件】町野町金蔵：パイプハウス解体 ●【作業3件】「金蔵万燈会」準備・瓶洗い、町野町金蔵：Hさん宅・納屋片付け荷物取出し、農道の草の焼却
⑤ワゴン 9/13-15	7	14	●【足湯2件】南志見集会所、曾々木集会所 ●【援農2件】町野町金蔵・草刈、パイプハウス解体 ●【作業1件】町野町鈴屋：Iさん宅石膏ボードはがし
⑥バス 9/27-29	13	26	●【足湯ボラ・3件】第1仮設集会所、第2仮設集会所、曾々木集会所 ●【作業1件】町野・広江：Jさん/屋内の流木・泥の撤去
⑦ワゴン 10/4-6	10	20	●【足湯ボラ・お茶会・2件】第1仮設集会所、第2仮設集会所 ●【作業1件】町野・公民館の泥だし
⑧ワゴン 10/11-13	14	28	●【足湯ボラ・お茶会・3件】第1仮設集会所、第2仮設集会所、曾々木集会所 ●【作業3件】町野・若桑：Sさん泥・流木の撤去
⑨ワゴン 10/18-20	7	14	●【足湯ボラ・お茶会・2】金蔵集会所、第2仮設集会所 ●【作業2件】町野・若桑：Sさん泥・流木の撤去、栗倉：モトヤ/店舗泥だし・清掃
⑩ワゴン 10/25-27	18	36	●【作業1件】町野・若桑：上谷宅パイプハウス泥出し ●【音楽セラピー4件】第1仮設、第2仮設、曾々木集会所、金蔵集会所
⑪ワゴン 11/1-3	7	14	●【足湯ボラ・お茶会2】南志見集会所、曾々木集会所 ●【援農ボラ1件】町野町金蔵：草刈り ●【作業1件】町野栗倉：モトヤ前宅室内壁片付け
⑫バス 11/8-10	17	34	●【足湯ボラ・お茶会3】第1仮設、第2仮設集会所 ●【援農ボラ1件】町野町金蔵：草刈り ●【作業1件】珠州市真浦：海楽荘泥出し
⑬ワゴン 11/15-17	6	12	●【足湯ボラ・お茶会3】第1仮設、第2仮設集会所、南志見集会所 ●【作業1件】町野町栗倉：側溝泥出し ●【援農・2件】町野町金蔵：パイプハウス移設、草刈
⑭バス 11/22-24	11	22	●【足湯ボラ・お茶会3】曾々木集会所、モトヤ、第1仮設集会所 ●【援農・1件】町野町金蔵：草刈り ●【作業2件】珠州市真浦：海楽荘泥出し、町野町曾々木：時田屋・瓦礫撤去
⑮ワゴン 11/29-12/1	8	16	●【援農・1件】町野町金蔵：草刈り ●【足湯ボラ・お茶会3】第1仮設、第2仮設、南志見集会所
⑯自転車 12/6-8	3	6	●【作業・2件】荷物取り出し、仮設住宅棚の制作・セット ●【援農・1件】町野町金蔵：草刈り
⑰ワゴン 12/13-15	10	20	●【援農・1件】町野町金蔵：H宅の草刈、●【作業1件】南志見・公民館床断熱マット貼り ●【足湯ボラ・お茶会・3件】第1仮設、第2仮設、南志見集会所
⑱ワゴン 12/27-29	16	32	●【イベント・1件】もちつき、年越しイベント
合計	187	374	●足湯・お茶会等：35回 ●援農：8件 ●作業：28件 ●イベント5回

(成果)

ボランティアセンターが地元の町野町にないことや、住民の大半が市外に転出していて週末に自宅に戻って片付けている状況であった。そこで災害NGO結と連携して現地での作業のコーディネートに依頼し住民との片付けのマッチングを行った。また、隣接する珠州市真浦町や能登町柳田地区でも片付けを行った。

足湯や「まけないぞう」での仮設住宅集会所訪問では、ボランティアがいなくて孤立感や「見捨てられ感」がある奥能登にあって、栃木からのボランティアが一縷の望みとなった。家の片付けの他に援農ボランティア、夏祭りの準備手伝いや集落の遊休棚田の草刈を行った。

9月21日の水害発生後は、家屋の土砂撤去やパイプハウスの泥の撤去の活動をおこなった。発生初期の段階で町野町復興プロジェクト実行委員会(町プロ)へのボランティアセンター設置のためのアドバイスをした。また、発電機、一輪車の貸出と助成金30万円を贈呈した。

市民立ボランティアセンター「まちなじボラセン」設置後、各地からのボランティアが集まるようになり、震災後からこれまでとは一転して活気がでてきた。しかし被害は深刻で、本会が宿泊拠点にしていたホテル海楽荘は土石流で全壊、社長も死亡した。農地も流木で作付け不能の状態になった。本会宿泊拠点は6月から海楽荘と金蔵地区集会所を交互に使っていたが水害後は金蔵集会所に移動した。

水害の片付けが一段落した12月になって、まけないぞうなど手芸の活動が仮設に高齢女性を中心に活発になった。

復興支援とともにアドボカシー活動、政策提言活動を行った。金蔵地区が提出した「復興住宅を集落内につくる陳情書」の署名活動を行った(10月から2月)。また「輪島市復興計画のパブリックコメント」への意見書も提出した(1月)。さらに、国と石川県に対して、「震災時に賃貸住宅居住者に対する仮設住宅の使用期限1年間」問題に対して、50人の署名付きに要望書を提出した。(2月)

これらアドボカシー活動の結果、今期4月になって輪島市が「コミュニティ持続型復興住宅(将来払下方式)」と「農村型リバースモーゲージ」の2つの制度を新たに創設した。また、国と石川県は「仮設住宅の期限を従来通り2年にする」と制度を撤回した。

■第3期(1/1-3/31)「奥能登・週末ボランティア」

(1)週末ボランティア・バスの運行：6回

年始から月2回のペースの活動に戻した。

(2)活動

輪島市町野地区で以下の3種類の活動を行った。

- ①仮設住宅の住環境整備（断熱床マット敷き、窓の断熱プチプチ包装材張り）、棚の作成と配布。
- ②「足湯」「まけないぞう」制作による仮設住宅集会所、集落集会所の訪問
- ③「援農ボランティア」遅れている農作業の補助、集落全体での草刈（道普請）、寺院の草刈

(3)成果と課題

(成果) ○ボランティア活動人数 63 人、のべ 126 人 ○足湯・お茶会等： 18 回（対象のべ 144 人、実数 45 人） ○援農：2 件 ○作業：58 件 ○イベント 6 回

	人数	のべ	活動/何件、何したか
⑭ワゴン 1/10-12	9	18	●【足湯ボラ・お茶会・3 件】第 1 仮設、第 2 仮設、金蔵集会所 ●【作業・2 件】仮設住宅床断熱マット貼り(2)、御用聞き・関係者取材
⑮ワゴン 1/24-26	10	20	●【足湯ボラ・お茶会・3 件】第 1 仮設、第 2 仮設、南志見集会所 ●【作業・12 件】仮設住宅窓防寒対策工事プチプチ貼り(7)・床断熱マット貼り(4)・棚(1)
⑯ワゴン 2/14-16	7	14	●【足湯ボラ・お茶会・3 件】第 1 仮設、第 2 仮設、南志見集会所、イチゴ配り 300 世帯 ●【作業・20 件】仮設住宅窓防寒対策工事プチプチ貼り(10)・床断熱マット貼り(10)
⑰バス 2/28-3/2	14	28	●【足湯ボラ・お茶会・3 件】第 1 仮設、第 2 仮設、南志見集会所 ●【作業・24 件】仮設住宅窓防寒対策工事プチプチ貼り(15)・仮設棚作成・設置(8)、モトヤ片付け
⑱ワゴン 3/14-16	8	16	●【足湯ボラ・お茶会・3 件】第 1 仮設、第 2 仮設、南志見集会所 ●【援農・1 件】町野町金蔵：パイプハウスビニール張り準備
⑲ワゴン 3/28-30	15	30	●【足湯ボラ・お茶会・2 件】第 2 仮設、南志見集会所 ●【援農・1 件】町野町佐野：K さんパイプハウス荷物片づけ作業準備 ●【イベント・6 件】学生交流会、音楽セラビー（金蔵集会所、第 1 仮設、第 2 仮設、曾々木、モトヤスーパー）
合計	63	126	●足湯・お茶会等： 18 回 ●援農：2 件 ●作業：58 件 ●イベント 6 回

(成果)

冬になり仮設住宅の防寒対策として、窓にビニール梱包材のプチプチを張る作業と、床に断熱マットを敷く作業を 1 月から 2 月にかけて行った。早く設置するためボランティア 1 人が残り期間を延長して作業した。

また石川県が「能登にトキを放鳥する」計画がもちあがったが町野や奥能登の将来のためにトキ・ブランド米と有機栽培を組み合わせた復興プランを構想している。数年間かけて集落内外の農家と栃木の NPO（野鳥の会、民間稲作研究所）との連携で実施していく。

一年以上の活動のおかげで地元の人とも仲良くなり、ボランティアの中から町野町に移住する人も現れた。

②復興支援活動：まけないぞうプロジェクト

今期は、東日本大震災被災地の復興支援に加え、能登の復興支援のために「まけないぞう」の作り方を普及した。今後作り手さんの技術向上を目指す。

これは寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の 25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。

(4)「とちぎVネット災害救援ボランティア基金」(NPOの活動資金の援助事業)

能登半島地震(今期分)と水害の募金をとちコミを通じて配分した。合計で1,085,400円となった。9/21の水害のあった「町野町復興プロジェクト実行委員会」に30万円を寄付した。

E.【NPO活動推進センター】

(1) NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

①福島からの避難者支援「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」の事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定 2000 人いるが、この世帯に対して復興支援員（非常勤 1 人）は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月 2 回、要継続支援 20 人を対象に実施した。

同事業は避難者が来訪し相談できる窓口として週 3 日開設した。また、自主事業として毎月第 2 日曜に「次世代に伝える。原発避難 14 年目ラジオ」を放送し、さらに動画でも配信した。（P9：ラジオ参照）

②SAVEJAPAN プロジェクトの運営

2021 年 10 月から損保ジャパン日本興和と日本 NPO センターの運営による「SAVELAPAN プロジェクト」の助成を受けた。3 期目（2023/10～2024/9 月）はとちぎ子ども自然体験ネットワークとの環境保全プロジェクトを実施している。4 期目（2024/10～現在）もとちぎ子ども自然体験ネットワークと実施し、毎月 1 回のコミュニティ FM（ラジオ）で環境×子どもというテーマで放送している。

■2023 年 10 月～2024 年 9 月：みんながけっぷちラジオ・毎月第 3 週「環境×子ども」10 回放送（P12 表を参照）
■2024 年 10 月～2025 年 3 月：現在実施中（毎月第 3 火曜）

(2) ボランティアと NPO に関する啓発・普及事業

①『とちコミSDGs 通信』『県北通信』の発行

とちぎコミュニティ基金と SDGs を中心にした情報紙を隔月で発行した。年 6 回、毎回 820 部発行し。宇都宮市議・栃木県会議員にも送付した。

また、2020 年 1 月からは『県北 V ネット通信』を創刊。県北のフードバンクの SOS 事例を掲載した 4 ページ通信を発刊した。

さらに、ラジオ、Youtube、WEB、SNS と紙媒体とを連動して広報力を強化している。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア 2 ～ 3 人による製本・発送で成り立っている。

【とちぎコミュニティ基金・SDGs 通信】

月	号	特集記事	月	号	特集記事
3-4 月	265	特集/「災害×SDGs」①災害×福祉インフラ ②災害×ボランティア、③災害×原発 ④災害×ボランティア拠点	9-10 月	268	特集/SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」/ルポ「外国人医療相談会」
5-6 月	266	特集/SDGs 1「貧困をなくそう」/座談会「フードバンクは貧困をなくせるか」	11-12 月	269	特集/SDGs 4「質の高い教育をみんなに」/ルポ・フリースクール「不登校の教育費、公費ゼロの栃木」
7-8 月	267	特集/SDGs 2「飢餓をなくそう」/学校給食に有機農産物を導入・小山市の農政レポート	1-2 月	270	特集/SDGs 17「パートナーシップで目標を達成しよう」/寄稿・市民活動の 30 年・とちぎ V ネットの 30 年。

①「みんながけっぷちラジオ」の放送/動画作成

2017 年 3 月からコミュニティ FM「ミヤラジ」で開始した。ラジオ学生がゲストに話を聞き、職員等がコメントする番組である。取材・放送・ブログ作成までを学生がインターン（アルバイト）として担当した。12 月と 6 月に「学生ラジオ・募集説明会」を実施するとともに、大学の先生と連携して各週を番組化することにした。1 月から今期は学生 6 人（24/1-12：苦米地美空、千葉奈央、長滝みなみ、24/7-25/6：山本沙奈、野田小百合、蓮井菜乃花）となった。「NGO/市民に聞く戦争と平和ラジオ」「原発避難 13 年目ラジオ」「環境と子どもラジオ」がはじまり、コメントの体制も番組ごとに設けた。番組は Youtube 動画で再録しホームページで公開した。

「半径 8 キロしか聞こえない」コミュニティ FM は、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・V レンジャーや、FB ボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が 10

人以上となっている。学生にもNPOにも有意義な出会いとなった。

【みんながけっぶちラジオ・番組表：2024/ 1月から12月】

	日付	テーマ	ゲスト/所属	コメント/学生
1	1/9	「作られる戦争」米軍基地・米兵による被害。	谷山博史（JVC顧問）	矢野/苫米地美空
2	1/16	“生き物遊び”を子どもたちとやりたい。	遠藤隼（サシバの里自然学校）	真山/榎森なつ実
3	1/23	「避難した人が何でも話せる居場所」を作りたい	大山香（避難者母の会）	内田/吉田+佐藤
4	1/30	第3の居場所が叶える子どもたちの「やりたい」	原田幸希（AppleBase）	中野/立花ひまる
5	2/6	仮放免者の「声にならない声」に向き合う	長澤正隆（北関東医療相談会アミーゴス）	矢野/苫米地美空
6	2/13	沖縄「台湾有事」と自衛隊のゴリ押し基地の拡大	谷山博史（JVC顧問）	矢野/千葉奈央
7	2/20	子どもとやるキャンプ。キャンプが若者を育てる	平山雄大（とちぎYMCA）	真山/榎森なつ実
8	2/27	「福島のお母さんと子供を救いたい」学問の知見と母子避難支援	高橋若菜（宇都宮大学国際学部教授）	矢野/佐藤あい
9	3/5	能登地震の現地とラジオ。足湯ボランティアで心のケア	高橋清人（他、ボランティア）	徳山/佐藤あい
10	3/12	重い米軍基地負担。平和を求める歴史と「沖縄を再び戦場にさせない」今の運動	谷山博史（沖縄対話プロジェクト）	矢野/立花ひまる
11	3/19	シルビアシジミの幼虫の食草ミヤコグサを守るための河原の草刈	高蓮伸拓（うじいえ自然に親しむ会）	遠藤/加藤柚穂
12	3/26	「原発避難は容易ではない」事故から13年。ふるさとを想う。	半谷八重子（双葉町⇒宇都宮）	内田/長瀧みなみ
13	4/2	子どもたちが自由に将来を選択できる手助けになりたい	江面ゆきの（あしなが学生募金）	矢野/千葉奈央
14	4/9	闘う二者の問題ではなく「悪を国際社会が許さない姿勢」をとり続けることが重要	並木麻衣（JVC）	矢野/長瀧みなみ
15	4/19	矢板を、自然を生かせるオリエンテーリングの聖地にしたい	高瀬由子（ソフィア）	遠藤隼/嶋田直博
16	4/23	放射能被曝の不安。立ち上がった市民の「生活と健康を守る」活動	清水奈名子（宇都宮大学教授）	内田/立花ひまる
17	4/30	犬の世話で、引きこもりの若者が元気に。人+動物の居場所。	岡本達也（キドックス）	中野/苫米地美空
18	5/7	増える女性の貧困＝年金世代も母子家庭も。処方は・・・	小澤勇治（フードバンクうつのみや）	徳山/佐藤あい
19	5/14	国際紛争とその後	藤井広重（宇都宮大学国際学部教授）	矢野/千葉奈央
20	5/21	「本能に従って遊んでほしい」荒地で何やったら楽しいか皆で考える	金井聡（キリフリ自然学校）	真山/嶋田直博
21	5/28	市民の手で続く甲状腺検査。裏には「ぬぐい切れない母の不安」	井田紫衣、木本さゆり（ハチドリ）	内田/立花ひまる
22	6/4	里親制度で子どもが安心して生活できる環境づくりを	石川浩子（フォスタリングセンター）	矢野/長瀧みなみ
23	6/11	今できることは現地とつながり続けること。困難に直面しても現場に居続けること	市川斉（シャンティ国際ボランティア会）	矢野/苫米地美空
24	6/18	「那須平成の森」の環境保全と自然体験	植村友美（那須平成の森）	真山/加藤伶奈
25	6/25	「若者から見た原発避難」	吉田千亜（フリーライター）	内田/苫米地美空
26	7/2	その人らしく生きられる場所を、型にはまらない福祉で	赤松里去子・長谷川涼華（EME）	徳山/長瀧みなみ
27	7/9	障害を作り出しているのは「社会」かも。自立生活の話	斎藤康雄（CIL栃木）	矢野/苫米地美空
28	7/16	子どもが自然の中で遊ぶきっかけにしたい	遠山あづさ（じおらじお）	内田/嶋田直博
29	7/23	「若い世代が見た震災とは」	石川ほのか（高校2年）	内田/千葉奈央
30	7/30	不登校の子供たちとフリースクール	箱崎大希（トライ）	中野/長瀧みなみ
31	8/6	薬物依存、正直になれる仲間と正直になれる場所が重要	柚子、蓮（ダルク女性シェルター）	矢野/野田小百合
32	8/13	商売しながら社会問題を解決する。とても身近な難民の話	秋元明日香（ピープルポート㈱）	矢野/蓮井菜乃花
33	8/20	SAVEJAPAN プロジェクト総まとめ①	真山高士、高橋伸拓、遠藤隼	遠藤/榎森なつ実
34	8/27	過去の世代が作り上げた過ち、起こった事実を伝え続ける責任がある。	門間裕佳（山形大学工学部2年）	矢野/長瀧みなみ
35	9/3	無料低額診療所の孤独な闘い	日下部 稔（協立診療所）	徳山/千葉奈央
36	9/10	「父が生きていた。死んでいてほしかったのに…」軍国少年の落胆	大野幹夫（とちぎの空襲を語り継ぐ会）	矢野/野田小百合
37	9/17	SAVEJAPAN プロジェクト総まとめ②	真山高士、高橋伸拓、遠藤隼	嶋田直博
38	9/24	原発を「事故の悲惨さ」も「経済・雇用」もあらゆる面から知ってほしい	加藤優喜（UP 宇大生プロジェクト）	内田/長瀧みなみ
39	10/1	成年後見がつくる「生き方・支援のしかたの選択肢」	松本勇治（社会福祉士）	徳山/蓮井菜乃花
40	10/8	「毎日通える通信制」の自由	飯嶋幸次（日々輝学園高校）	矢野/野田小百合
41	10/15	手入れされることで価値が蘇る森林・里山がたくさんある	荻原なな（トチギ環境未来基地）	塚本/山本沙那
42	10/22	13年では癒えない傷	服部育代（ほっと岡山）	内田/千葉奈央
43	10/29	「子どもが声を上げざるを得ない状況」に危機感をもってほしい	青木心言（こども若者★いけんぷらす）	中野/長瀧みなみ
44	11/5	アルコール依存症奮闘記	野添透（社・かずあるかたち）	徳山/千葉奈央
45	11/12	「難民鎖国」日本！ 北関東医療相談会報告に参加して	石原宇法（宇大4年/FBインターン）	山本沙那、野田小百合
46	11/19	厄介者だけど豊かな資源！竹の可能性を暮らしに活かす	伊藤奈菜（ヒジノワ・タケ部）	塚本/長瀧みなみ

47	11/26	進む復興と「止まる心」―被災地スタディディ・ツアー	北村雅、千葉奈央	矢野/蓮井菜乃花
48	12/3	不登校 11 年連続増加。子どもも親も「がけっぶち」	土橋優平（キーデザイン）	矢野/長瀧みなみ
49	12/10	「あなたの SNS は現地の人に届いている」ガザ戦場での支援	糸井志帆（NGO パルシック）	矢野/長瀧みなみ
50	12/17	生業とともにある風景	蓑田里香、廣瀬俊介（風景社）	塚本/蓮井菜乃花
51	12/24	原発避難：元・高齢者デイスサービス。ケアしながら避難	北村雅（避難者：双葉⇒小山）	矢野/蓮井菜乃花

（３）震災がつなぐ全国ネットワークの加盟・運営（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）
 災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな）」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。

（４）ボランティアリズム推進団体会議(民ボラ)の運営（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）
 全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う「第 41 回ボランティアリズム推進団体会議(民ボラ)」を **8 月に茨城**で実施した。企画・運営・実施に職員 1 人を実行委員として派遣し実施した。

F. 【とちぎコミュニティ基金】

- （トピック）
- ・能登半島地震と能登水害の寄付が 108 万円になった。
 - ・助成事業は、各事業ごとに外部委託し、職員負担の軽減と人事体制のリスク分散を図った。
 - ・合同ファンドレイジングの寄付の落ち込みが大きかった。

（１）プロジェクト（NPOの活動資金の援助事業）
①子ども SUNSUN プロジェクト＝子どもの貧困撃退♡円卓会議(宇都宮)
 2017 年 3 月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催した。2023 年まで毎年テーマを設け活動してきたが、数年前から活動は停滞気味であり今期(2024 年度)は「子ども SUNSUN プロジェクト助成」のみ実施した。

（２）助成（NPOの活動資金の援助事業）
①子どもSUNSUNプロジェクト助成金
 サンサンプロジェクトの集まったマンスリー寄付金などを原資に 2023 年度から子供食堂などの設立・運営支援のための助成プログラムを実施した。10 月に公募開始、1 月に審査会と配分を行った。2024 年度は **13 団体に総額 160 万円**を配分した。運営を NPO 法人かぬま市民活動サポーターズに委託して実施した。

<p>子ども SUNSUN プロジェクト助成金募集要項 (2024 年度助成金)</p> <p>1 趣 旨</p> <p>貧困問題が増え続けています。その影響を最も受けるのは、子どもたちやシングルマザーなど社会的弱者です。その中でも特に増加していると言われる「貧困や孤立状態にいる子どもたち」を救うために、とちぎコミュニティ基金を中心に栃木県内の様々な団体や企業・個人が集まってスタートしたのが「子ども SUNSUN プロジェクト」です。当プロジェ</p>	<p>(3) 助成採択団体の義務</p> <p>ア. 本事業により知り得た個人情報 は、適切に管理すること。</p> <p>イ. 2026 年度 SUNSUN プロジェクト総会で活動内容を発表すること。</p> <p>ウ. 事業終了後 1 カ月以内に助成金報告書、収支計算書・事業費明細書を提出すること。</p> <p>エ. 本会において必要と判断した場合は、活動内容等についての調査を受けること。</p>
---	---

クトの活動のひとつとして、イベント開催などを中心に寄付をあつめ、その集めた寄付を原資にし、支援の体制づくりや支援活動を行う団体などへ助成しています。

2 募集期間：2024 年 12 月 25 日まで

3 募集内容

(1) 対象となる活動 ア. 子どもの生活と子育てを支援するための活動 イ. 生活困難者（児）を支援するための活動 ウ. 生理の貧困などを支援するための活動 エ. 孤立などを支援するための活動 オ. 外国籍の児童を支援するための活動 カ. 子ども食堂や居場所の開設準備や運営費の補助等 キ. その他地域福祉や児童福祉を推進するための活動等

(2) 助成総額：150 万円

(3) 助成金額：1 件につき 5 万円～20 万円 ※審査で希望金額を減額して助成する場合もあります。

(4) 助成期間：2025 年 4 月～2026 年 3 月末

4 応募方法等

(1) 下記メールアドレス宛に、子ども SUNSUN プロジェクト・助成金申請書を送信してください。メールアドレス：info@tochicomi.org 申込締め切り：2024 年 12 月 25 日（水）必着

※申し込み後、基金より受領確認のメールを返信いたします。受領確認のメールが1週間以上経っても届かない場合は、お手数では御座いますが基金までご連絡ください。

※ホームページから申請用紙のダウンロードができます⇒
https://tochicomi.org/

(2) 審査方法：本会の配分委員会において審査し決定します。（審査時期：2025 年 1 月）

5 問い合わせ：とちぎコミュニティ基金（認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク内）

〒320-0806 栃木県宇都宮市中央 2-7-6

■事業担当：渡邊/長野（NPO 法人かぬま市民活動サポーターズ）

TEL：0289-60-2212 FAX：0289-60-2213 MAIL：info@tochicomi.org

	団体名	地区	助成額
1	NPO) そらいろのたね	栃木	100,000
2	宮っこ支援センターSAKURa	宇都宮	200,000
3	NPO) みんなのカタチ	茂木	200,000
4	NPO) 青少年の自立を支える会・月の家	宇都宮	100,000
5	SANO-no-WA さののわ	佐野	50,000
6	Teto Lala	宇都宮	100,000
7	NPO) ハロハロラボ	真岡	100,000
8	NPO) 植野たすけあい	足利	100,000
9	NPO) 宇都宮子ども劇場	宇都宮	50,000
10	NPO) いちかい子育てネット羽ばたき	市貝	200,000
11	NPO) ちもり	佐野	100,000
12	北犬飼子ども食堂ライト	鹿沼	200,000
13	ブラっと こども食堂	真岡	100,000
	合計		1,600,000

②「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る18回目の地域助成を行なった。助成金額は20万円1団体、10万円3団体の50万円である。審査は**12月19日の第1次審査**で4団体を選考し、それらのなかから花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により1番票を集めた団体に20万円を助成することにした。**応募は21団体**であった。**3月22日に贈呈式**を実施し、前期(2022年)の助成団体の報告会も合わせて実施した。

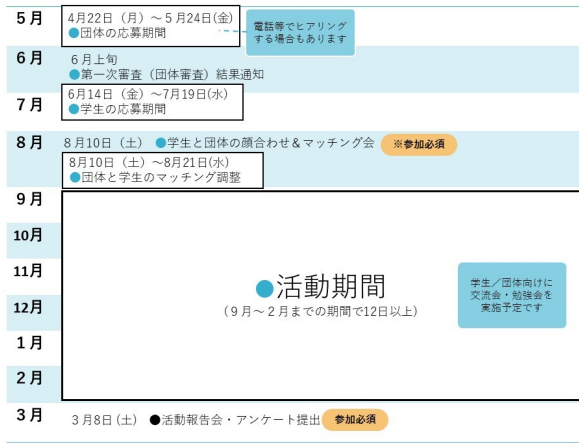
今期後半から運営をNPO法人かぬま市民活動サポーターズに委託して実施した。

<p align="center">2024 年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)</p> <p align="center">—栃木県内のNPO・市民活動団体を応援—</p> <p>花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。</p>	
<p>1、助成内容</p> <p>助成内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成総額：50万円 ・助成団体数：4団体 ・助成金額 助成：20万円＝1団体、10万円＝3団体 <p>2、選考までの流れ</p> <p>◎応募受付開始：10月20日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着</p> <p>◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により4団体を選出。</p> <p>◎二次選考(投票選考)：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。</p> <p>◎贈呈式・レセプション：3月22日。1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。</p> <p>◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。</p>	<p>3、応募団体の条件</p> <p>①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的にやっている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない)</p> <p>②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと(1年休み後の応募は可)。</p> <p>4、応募・問い合わせ先</p> <p>とちぎコミュニティ基金(とちぎボランティアネットワーク内)</p> <p>〒320-0806 栃木県宇都宮市中央 2-7-6</p> <p>■事業担当：渡邊/長野 (NPO 法人かぬま市民活動サポーターズ)</p> <p>TEL：0289-60-2212 FAX：0289-60-2213 MAIL：info@tochicomi.org</p> <p>■選考結果(助成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人みんなのカタチ(茂木)：20万円 ・佐野梅園地区 菜の花プロジェクト(佐野)：10万円 ・NPO 法人キーデザイン(宇都宮)：10万円 ・学生団体Free!!!(宇都宮)：10万円

③「たかはら子ども未来基金」

2017 年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPOの活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った(2017年から2027年までの10年間継続して寄付を受け、助成を行う予定)。

学生インターン部門には7団体の応募があり6団体に助成した。学生は5人の申込があり全員に助成した。なお、助成の事務はとちぎユースサポーターズネットワークに委託して実施した。

とちぎコミュニティ基金【たかはら子ども未来基金】・学生インターン助成 (申込締切) 団体：2024/5/24、学生：2024/7/19	
<p>1. たかはら子ども未来基金とは？</p> <p>たかはら子ども未来基金とは、子どもや若者の未来を応援する目的で、2017年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。</p> <p>現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設されました。若者の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、そのような学生を応援する目的で学生NPOインターン助成が設立されました。特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくことを目指します。</p> <p>2. 助成事業（学生インターン助成）</p> <p>学生NPOインターン助成は、学生が一定期間、NPOや市民活動団体に就労体験すること（＝NPOインターンシップ）を応援します。若者と団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。企業のインターンシップは、業務の見習いの要素が強いです。NPOインターンは、加えて、職員としてのボランティア的な自発性や創意工夫が求められます。日常業務のサポートだけでなく、インターン生とともに既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体に助成します。</p> <p>3. 対象団体</p> <p>① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体。例) こども食堂の運営支援、新規設立支援。② 子どもの学習を支える活動をする団体。例) 無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。③ 子どもの体験を支える活動をする団体。例) 自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。④ 若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 ⑤ 例) 若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。⑥ その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体。例) 環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。</p> <p>(1) 助成する団体の条件</p> <p>■営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行う栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ■県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。■対象市町：矢板、塩谷、高根沢、さくら、大田原、那須塩原、那須、那珂川、那須烏山、宇都宮、上三川、壬生、日光、鹿沼、芳賀、市貝、益子、茂木、真岡。(事務所があるか、活動している団体)</p> <p>(2) 選考基準</p> <p>前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考します。</p> <ol style="list-style-type: none">子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体地域で必要とされ一般の人に関われて、参加できる活動助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体(学生が相談できる職員がおり、活動の計画、実施、振り返り、改善をともにできること)学生と一緒に既存事業の発展や新規事業立上げを行える団体	<p>4. 学生インターンの内容</p> <ul style="list-style-type: none">学生受入希望の団体と、NPO活動に関心の高い学生をマッチング。《助成額》8月～2月のうちの12日以上インターンシップ活動に対し、学生60,000円、団体40,000円を助成します。・助成総額：900,000円(最大でインターン生9人分と団体9団体分)*1団体に2人以上の受入れてもらうこともあります。 <p>①第一次審査(団体審査)：選考基準を満たしている団体には、最大9団体に、結果通知をお送りします。</p> <p>②二次審査(学生審査)：選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。</p> <p>③マッチング手順</p> <p>A：1人の学生が団体を希望。他に希望する学生がいらない場合⇒成立。</p> <p>B：1団体に複数の学生が希望している場合⇒団体と協議し決定。</p> <p>C：希望の団体なかった場合⇒不成立。</p> <p>④助成限度の9人のマッチング成立した場合、審査後、最終結果を通知します。</p> <p>*特別追加枠について…マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加してもらえる「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。(想定される例)→学生2人が団体Aにインターンを希望し、1人は助成金を通った場合、もう1人は特別追加枠として、参加。</p> <p>■選考結果</p> <ul style="list-style-type: none">・茂呂唯花(茨城大学4年)：一社) ひるね・石原宇法(宇都宮大学4年)：NPO) フードバンクうつのみや・小菅裕次郎(浪人1年)：NPO) ハロハロラボ・細谷弥生(宇都宮大学1年)：NPO) そらいろコアラ・大下和奏(宇都宮大学3年)：社福) とちぎYMCA 福祉会「アットホームきよはら」 

④「能登水害」ボランティア活動支援金

9/21に発生した能登水害の救援活動のための募金活動を行った。寄付額は875,000円となり、能登半島地震の寄付(2004年度)210,400円を合わせて、1,085,400円の寄付となった。本会の活動資金となるとともに、町野町復興プロジェクト実行委員会に「まちなじボラセン」運営資金として30万円を助成した。

⑤「とちぎゆめ基金助成」「ゆめSDGs助成」

調査助成の応募が1件あり、新規の審査を行なった。この助成の特徴は①地域の課題解決のために複数の団体に応募する、②3年間の助成で1年目は調査をするという珍しい助成金である。今期からは継続助成がなくなり、新規の応募が待たれているところであった。応募は1団体あったが審査の結果、助成に該当しなかった。

2024とちぎゆめ基金 「持続可能な地域づくり・SDGs助成」

1、主旨

この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。(1年目は調査助成のみ)

国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール (SDGs)」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計(調査)と実施(継続するための仕掛けづくり)のスタートを支援します。みんなで10年取り組みれば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。

2、対象となる事業・条件

- ・3～5団体以上の協働での応募であること。
- ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取り組む内容であること。

3、伴走支援：必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。

4、助成期間：2024年4月1日～2025年3月31日

5、助成金額・件数：総額50万円

(1)調査助成：1事業10～15万円×3団体程度

(2)継続するための仕掛けづくり助成(2年目以降)：10～20万円×2団体程度

※今年度は(1)調査助成のみ募集

6、報告書・成果物

調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。

7、応募について

(1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等(※営利/非営利、法人格不問)

(2)応募方法：①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送

かメールで。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード

(3)締切：2024年12月25日(水)

(4)選考方法と選考基準

①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。

②複数団体による応募を優先します

③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性(SDGs)への促しを進めるもの。

④広義の福祉を中心とした応募を優先します。

① 波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。

② 選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。

(3)合同ファンドレイジング(NPOの活動資金の援助事業)

①「サンタdeラン&クリーン&パレード」の実施

9回目のサンタdeラン&ウォークは昨年同様「ラン」と「清掃」を合体させた形で開催した。パレードは「世界の子どもたちに平和を」というテーマを設け、一般参加もできるようにした。当日は450人の参加となり、多世代の人が楽しめるイベントとなったが、寄付は420万円で、前回と比較して200万円も激減した。原因は物価高だと思われる。実行委員会は4月～1月の10か月間、約15回実施した。

No	預かり寄付渡先	2022		2023		2024	
		集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
1	とちぎVネット+県北V	1,417,324	1,397,989	810,384	942,392	638,638	658,818
2	子どものみらい応援隊	229,807	226,672	262,887	305,710	322,904	333,107
3	だいじょうぶ	501,700	494,856	458,000	532,606	461,800	476,392
4	うりずん	626,505	617,958	394,281	458,508	126,037	130,020
5	トチギ環境未来基地	21,000	20,714	46,000	53,493	60,000	61,896
6	青少年の自立を支える会	15,526	15,314	13,120	15,257	22,000	22,695
7	フードバンクうつのみや	1,227,153	1,210,413	527,170	613,044	190,000	196,004
8	ちゅんちゅんこども食堂	200,000	197,272	314,000	365,149	275,000	283,689
9	宮っこ元気食堂	85,701	84,532	125,408	145,836	127,250	131,271
10	家庭教育・たんぼぼの会	110,410	108,904	96,113	111,769	53,245	54,927
11	チャイルドラインとちぎ	105,000	103,568	104,000	120,941	70,000	72,212
12	そらいろコアラ	43,487	42,894	39,658	46,118	44,116	45,510
13	宮っこ支援センターSAKURA	-	-	164,393	191,172	219,914	226,863
14	やぎハウス	284,009	280,135	241,000	280,258	240,000	247,583
15	ちょこっと	-	-	-	-	77,000	79,433
16	自主夜間中学宇都宮校	9,000	8,877	-	-	30,000	30,948
17	コミュニティフリッジ大田原	-	-	-	-	93,500	96,454
	キーデザイン	10,000	9,864	-	-	-	-
	とちぎYMCA	217,987	215,013	367,329	427,165	-	-
	きよはら食堂キャラバン	20,000	19,727	10,000	11,629	-	-
	蔵の街たんぼぼの会	234,228	231,033	97,283	113,130	-	-
	計	5,339,837	5,266,993	4,071,026	4,734,178	3,051,404	3,147,822
	全体に寄付	1,688,808		2,241,211		1,145,692	
	とちコミ経費		1,761,911		1,578,059		1,049,274
	合計	7,028,645	7,028,904	6,312,237	6,312,237	4,197,096	4,197,096

③ チャリティウォーク39

県内のF B団体の合同ファンドレイジ
ングとしてとちコミ主宰で実施した。1
日イベントを県北（10/5 黒羽）、日光
（10/6）の2か所で行った。寄付は
2,707,363円（275件）、参加者は102人、
ボランティア60人となった。

運営のために6月から実行委員会を組
織し実行委員会・ボランティア説明会を
12回実施した。

	2023		2024	
団体名	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
FB 県北	1,071,107	1,176,859	917,740	1,023,982
FB 日光	161,529	177,477	168,000	187,448
FB もおか	123,000	135,144	91,500	102,092
FB 希望のタネ	59,000	64,825	9,000	10,042
FB うつのみや	543,853	597,548	553,608	617,696
FB さくら	59,000	64,825	80,000	89,261
	2,017,489	2,216,678		
全体に寄付	938,082	—	887,515	—
事務局経費	—	738,893		676,841
計	2,955,571	2,955,571	2,707,363	2,707,363

第12回「チャリティウォーク 39（黒羽、日光）～ここは誰もがヒーロー～	
<p>1、目的・趣旨 県内で活動するフードバンクへの資金造成（寄付）とフードバンク活動の理解促進のためのチャリティイベントをとちぎコミュニティ基金の主催で実施する。 食品ロスや軽減だけでなく、以下のような困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることでフードバンク活動の意義や効果をより広く世間に広報する。そして、それらを支えるのは地域住民、企業の意識であり、寄付であることを訴え、「私たち自身がセーフティーネットを作っていく」必要性と、こうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを強く発信する。</p> <p>《困窮者の状況》</p> <ul style="list-style-type: none">・パートを掛けもちしながら働く貧困線以下の母子家庭の窮状・不安定な就労をし、雇い止めと同時に職と住居を失うワーキング・プア・病気、精神疾患になり年金も少なく、「人の縁」に恵まれないなど、経済的にも精神的にも困窮、孤立している高齢者の窮状・生活保護では困窮者の全部は救えておらず、事実上生活保護以下の収入で暮らしをしている人が数倍いること（生活保護の捕捉率は約2割）・外国ルーツの子どもと家族が、様々な制度から外れていて、今日生きることも厳しい状況もある。（仮放免の外国人は医療や就労、移動に制限がある） <p>○県北と日光の3会場とし、日付をずらして実施する。</p>	<p>3、参加資格等 ●チャリティウォーク 39（黒羽・日光） ・参加できる人（個人）：食品1kg以上の寄贈、と寄付3,000円か5,000円か1万円以上を寄付した人（団体）：1チーム3～5人。食品10kg以上を寄贈し、3万円以上を寄付したグループ ・寄付先の指定：今回参加している県内のFBへ、全体に寄付か指定寄付を選べます。 （学生応援）：ガンジー・テレサ基金、学生チャレンジャーを応援する寄付。1口5000円。☆応援されたい学生は参加寄付が最大半額になります。申出てください。 ※5 複数回参加する人はその都度寄付を支払う。複数回参加した人には達成感のあるものを贈呈する。 ・寄付先の指定：今回参加している県内のFBのどこにでも寄付できます。□に✓してください。 寄付先団体 ①フードバンク県北 ②フードバンクうつのみや ③フードバンク日光 ④フードバンクもおか ⑤フードバンクさくら ⑥フードバンクさくらんぼ（NPO法人希望のタネ）</p> <p>4、広報 WEBサイトによる広報。① フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する（毎週1～2回更新） チラシの配布による営業活動 ①各市町 ②企業 ③学校</p> <p>5、募集 ①黒羽●参加者：150人（団体10チーム、個人100人）・ボラ50人・協賛企業（施設）10社：寄付および参加者への支援飲料、食品等 ②日光●参加者：100人（団体10チーム、個人50人）・ボラ60人・協賛企業（施設）…15社：寄付および参加者への支援飲料、食品など</p>
<p>2、日時・場所 ①黒羽）2024年10月5日（土）9～16時 ・＜コース＞大田原市黒羽庁舎前集合、羽田沼野鳥公園、黒羽庁舎終着。芭蕉の句碑をめぐる俳聖気分での俳句や川柳を作りながら歩きましょう ②日光）10月6日（日）・9時～16時頃（雨天実施） ・＜JR日光駅～第2いろは坂～中禅寺湖＞ ③宇都宮）10月6日（土）・9時～16時頃（雨天実施） 今市・大谷川公園～東照宮方面</p>	

F. 【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

（概況）2024年度は日本財団「子ども第三の居場所運営事業（最終年）」の助成金により、フードバンク活動と共に、週3日（火水金）の子ども食堂と、子ども体験活動を月2回実施した。

職員1人、非常勤職員2人とボランティア50人とともに事業を行った。今期は助成が終了して、会費・寄付などの自己財源で運営するように組織体制の強化をしている。

職員とボランティアの協働による運営で、意思疎通が上手くいった。一方でフードバンク県北は食品の値上がりがあり、8月にはフードバンクの米が無くなる状況があったが、情報発信や呼びかけなどで継続的に支援ができた。フードバンク利用が1.3倍に増加、新規利用者も増えている。来所の困窮者にアセスメントをおこないな

がら毎月1回食品配布会を実施した。

寄付イベントとして「チャリティウォーク県北」と「クリスマスウォーク Night」を開催した。特に後者は、夜の開催となったが、参加者にとっても好評であった。

(1)生活困窮者支援 (生活困窮者の支援)

①フードバンク県北

2024年度は754件(15.6トン)を受贈、うち923件(11.3トン)を生活困窮者に寄贈した。昨年比食品支援が約200件増加。フードバンクを利用する多くの人が長期の困窮状態になっている。

食品配布会は毎月第2土曜日に実施し、相談支援を受けながら、多職種連携を図る。また3月には栃木県の補助金を受託し配布会を実施した。大田原市の協力により無償貸与にて勤労青少年ホームに食品倉庫を確保することができた。9月には「チャリティウォーク県北」を主宰し、寄付87万円を集めた。

(2)子ども第三の居場所「スマイルハウス」 (生活困窮者の支援)

①「子ども食堂」の運営…「子どもの居場所」、「学習支援」、「食事支援」

子ども食堂は週3回、年間約150回実施した。日本財団の助成を受けて行った。

このほか体験活動は毎月2回、第1、3土曜日に実施した。子どもたちには野外活動、農業体験、料理、自然とふれあうことなどの経験を積ませ、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーションなどの「非認知能力」を育ませた。スマイルハウスの子どものみだけでなく、他の子どもや大人と関わりを学びながら社会性も身につけている。

1	4/6	石の愉楽アクセサリーづくり体験活動	9	9/21-23	モリウミアス現地プログラム：2泊3日
2	4/20	矢板58口ハスクラブ空中アスレチック体験活動	10	10/19	アングラーズパークキングフィッシャー・釣り体験
3	5/18	那須ワールドモンキーパーク体験活動	11	10/30	ハロウィンウォーク
4	6/15	那須トリックアートの館体験活動	12	11/16	社会体験活動 ヨークベニマル上厚崎店・サンタ de 募金
5	7/6	たたみづくり体験活動準備 講師山本畳店さん	13	12/18	スマイルハウスクリスマス会 12/18
6	7/20	茨城県伊師浜海水浴場で子ども体験活動	14	1/26	江ノ島バス旅行(江ノ島水族館、江の島神社、岩屋)
7	8/21	ダイナム体験活動支援	15	2/15	Spes アクティビティ塩原の雪山で体験活動 2/15
8	9/7	塩原ヘキャニオニング	16	3/15	ハンターマウンテン塩原で雪遊び体験活動
17	モリウミアス子ども体験活動オンラインプログラムと現地訪問実施(主に第2水) 5月カツオ 6月銀鮭 7月たこ 8月アワビとつぶ貝 9月穴子 10月マグロ 11月ホタテ 12月あいなめ 1月塩引き鮭 2年味噌 3月手巻き寿司				

②ヤスイの食卓(子育て世帯を応援!若者支援) 誰でも来れる食堂

毎月第3土曜日に実施。親の子育て負担の軽減支援と若者の自活能力の向上を掲げ、子どもも大人も誰でも来れる食堂を毎食15~25食ほど提供した。おとな500円、子ども300円と低料金でまかなっている。

(3) 情報発信 YouTube ボランティアのしょうちゃん

栃木県北地域の福祉活動の見える化と、地域のつながりづくりを目的にYouTubeを活用した生配信および編集動画を継続的に発信した。具体的には、「福祉を支える人」に焦点を当てたインタビュー動画を1本ずつ丁寧に製作し地域で働く人々の思いや取り組みを広く紹介した。また、子どもからの素朴な質問に答える企画や、ボランティア活動を取り上げた動画など世代を超えて参加できる発信にも取り組んだ。取材編集動画を39回、とちぎフレッシュライブ生配信を37%実施した。

これらのYouTube配信によって地域住民の関心や理解が深まり、「自分も何かできるかもしれない」という気づきや行動のきっかけが生まれるなど、福祉の裾野を広げる成果があった。

一方の課題としては、動画の認知度向上や定期的な視聴者の確保、インターネット環境や機材面での安定性の確保が挙げられる。また、出演者協力者の確保や編集作業の負担など、継続的な運営のための体制づくりも今後の検討事項である。

<YouTube インタビュー取材>

1	4/10	若松美紗	18	9/19	訪問介護事業所ケアシス：金澤大介
2	4/19	すぎの子幼稚園矢野雅大	19	9/25	那須町社会福祉協議会

3	4/30	キャリアコーチ高木雄大	20	9/30	美酒佳肴荒喜家：田中聖純
4	5/16	伊藤都	21	10/21	ボードゲームなないろ：虻川裕
5	5/24	尾引石材店：尾引仁	22	10/29	相談支援専門員 芝本沙南
6	5/25	ケアマネージャー：尾又正志	23	10/29	ミープル学童クラブ：中尾翔吾
7	6/5	佐々木健	24	11/8	那須塩原市シニアセンター
8	6/11	大田原市社会福祉協議会	25	11/14	ソウルサウンドライアー楽器奏者：小泉あけみ
9	6/13	那須塩原市社会福祉協議会：柴田直也	26	11/21	大田原社会福祉協議会地域福祉係：小滝・高崎
10	6/26	相撲連盟会長：大沼健司	27	11/28	パワーストーンセラピスト：辻裕美
11	7/6	FB うつのみや社会福祉士：松葉友恵	28	12/5	スピリチュアル：牛腸也真人
12	7/11	大田原塗装：阿久津文宏	29	12/19	作業療法士だいなりハビリクリニック：鈴木啓太
13	7/22	大田原市地域包括支援センター	30	1/6	だいなりハビリクリニック言語聴覚士：山本厚美
14	7/25	古谷農産：古谷忠	30	1/9	理学療法士：時庭賢治
15	8/26	キングフィッシャー：手塚史規	32	2/27	山林保全と耕作放棄地：君島洋一
16	9/7	さくら訪問看護ステーション師長：鳥居香織	33	3/10	那須まちづくり広場：取材
17	9/12	Delight サロン：中村龍徳	34	3/30	ひまわり薬局：田代孝文

【とちぎフレッシュLIVE生配信 YouTube アーカイブ 2024年7月～2025年3月】

	日付	YouTube タイトル	ゲスト（所属）	MC/サポート
Fresh 1%	7/3	初生配信！	佐々木健（バンビ洋菓子店）	しょうちゃん/りょうこまる
2%	7/10	家庭教育とは…	林美幸（家庭教師）	しょうちゃん/りょうこまる
3%	7/17	癒やされたーい♡知らなかった耳のツボ！とっておきのリラクゼーションを紹介！	伊藤直美（モデルスタジオルーチェ）	しょうちゃん/りょうこまる
4%	7/24	ゴミ処理の裏側を暴露！家庭でも簡単にできるゴミ処理方法を教えて	斎藤誠之（那須クリーン）	しょうちゃん/りょうこまる
5%	7/31	ゴスペルが聞きたーい！美しい歌声を見逃がすな！スペシャルLIVEでお届け	ミンゴス（アジア学院ゴスペル）	しょうちゃん/りょうこまる
6%	8/7	情報誌のつくり方	奥田奈緒（アドタウン編集部）	しょうちゃん/りょうこまる
7%	8/14	フルートを聴いて	とっしー、伊藤直美、芝本沙南（いいトコ撮り那須 ch）	しょうちゃん/りょうこまる
8%	8/21	スマホでプロっぽく動画を撮りたーい	関谷陸（映像クリエイターNASUKOMA）	しょうちゃん/りょうこまる
9%	8/25	県民も知らないとちぎの農業と釣り	古谷農産/古谷忠さん、キングフィッシャー/手塚史規さん	しょうちゃん
10%	9/4	大田原市の朝市と屋台まつりの裏側紹介	荒町商店会会長/高野正希さん	しょうちゃん/立山真理さん
11%	9/11	熱すぎる！地元職人こだわりトーク	尾引仁（石材店）阿久津文宏（大田原塗装）	しょうちゃん/みーちゃん
12%	9/18	那須塩原市の魅力を教えて！	アンちゃん（shioharaviva）	しょうちゃん
13%	9/25	子どもから100歳まで夢と希望を！	津守那音（那須野ヶ原FC・大田原市議）高木義博（健康生きがいつくり）	しょうちゃん
14%	10/2	大田原ブランド認定キムチを食べてみよ！	まっちゃんキムチさん	しょうちゃん/みゆみゆ
15%	10/9	誰でもカッコよくなるテクニック大公開	中村龍徳（Delight サロン中村）	しょうちゃん/手塚史規
16%	10/16	ボランティアは革命だっ！	R 瀬川淳多（M&AM代表取締役）	しょうちゃん/みゆみゆ
17%	10/23	不登校から始まる教育改革	トーキョーコーヒー/久松しのぶさん	しょうちゃん/みゆみゆ
18%	11/6	注目度急上昇！ひるがおマルシェって？	町田睦（ひるがおマルシェ）	しょうちゃん/みーちゃん
19%	11/13	人生は楽しく！笑顔になりたい人は見てね♪	佐藤恵子（シフォンケーキ工房あとれお）	しょうちゃん/みゆみゆ
20%	11/20	里親として生きる～里親制度を知ろう！	吉成晴香・芝本沙南（NPO 法人子どもの育ちを応援する会/）	しょうちゃん/りょうこまる
21%	11/27	ソウルサウンドライアーとフルートセッションで癒しの空間に誘います！	中尾翔吾・小泉あけみ（ミープル学童クラブ）	しょうちゃん/さなみん
22%	12/4	現在の福祉の課題はどんなものがあるの？	那須塩原市社会福祉協議会/柴田直也さん	しょうちゃん/さなみん
23%	12/11	お昼にマルシェ♪	町田睦（ひるがおマルシェ）、清水綾飛（gggピザ）、櫻井優太（気まぐれコーヒー）	しょうちゃん/みーちゃん
24%	12/18	協同労働とは・・・!?	相良孝雄・堀部祐輝（ワーカーズコープ事業団）	しょうちゃん
	12/25	クリスマス総集編	-	しょうちゃん
25%	1/1	新春の癒やし時間～パワーストーンとともに～ソウルサウンドライアー生演奏必見！	辻裕美（パワーストーンセラピスト）	しょうちゃん/IZUMI さん
26%	1/8	ピアノ生演奏！初心者でも上手くなる！声の出し方リズム感が良くなるポイント	音楽家/岡倉ゆかりさん	しょうちゃん/みーちゃん
27%	1/15	タロット占いの世界	瞳花（タロット占い師）	しょうちゃん
28%	1/22	ひるがおマルシェ LIVE クッキング	町田睦・櫻井優太・清水綾飛・川田浩平（ひるがおマルシェ）	しょうちゃん

29%	1/29	エッセンシャルオイル伝える人	アロマセラピスト/かすたーどさん	しょうちゃん/みゆみゆ
30%	2/5	だいなりハビリクリニック	鈴木啓太・橋本秀徳・時庭賢治（だいなりハビリクリニック）	しょうちゃん
31%	2/12	ママが笑顔なら子どもも元気！	ちーちゃん、岡倉ゆかり（子育て応援ちーラジ）	しょうちゃん/みーちゃん
32%	2/19	真心を大事に手づくりのお弁当	菊地孝史、ちくわ（T's Dely）	しょうちゃん/IZUMI さん
33%	2/26	肌質改善とリンパケアを学ぼう！		しょうちゃん/
34%	3/5	自分に似合うカラーを知ろう！	大平めぐみ（イメージコンサルタント）	しょうちゃん/みゆみゆ
35%	3/12	医療と福祉をつなぐ薬剤師	田代孝文（ひまわり薬局阿波町店薬剤師）	しょうちゃん
36%	3/19	防災 防犯のスペシャリストに学ぼう！	渡辺勇人（ユュー商会）	しょうちゃん/みゆみゆ
37%	3/26	美を追求する！自宅でもできる簡単ケア	平山未来（エステティシャン）、菊池崇礼（深層リンパケア）	しょうちゃん/はるちゃん 清水綾飛さん

3. 財政・組織運営

(1) 会員

会員数は640人（団体20、支持153、賛助467）、会費は**167万円**になった。会員数は能登半島地震により賛助会員が70人増加した。会費収入は昨年より49万円減少した。

能登災害のボランティア参加により賛助会員は増えているが、団体会員、支持会員は減少している。理由は高齢で年金生活になり退会したり、会費未納が増えていることである。また、会費支払いのお願いを送付しても物価高騰の影響で支払いを後回しにする会員が増えていると予想される。

今期も、能登地震災害救援ボランティアの参加条件を「賛助会員になること」として会員を増加する。

(2) 寄付

年間寄付額は1,862万円になった（前期2,409万円）。また、NPO法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期はボランティア活動評価額は1,452万円となり前期より1,106万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

一般会計		寄付の方法
① 一般寄付	通常の寄付	・現金 ・郵便振替 ・銀行引落し 都度寄付とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。 ・オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
② 災害寄付	災害救援目的の寄付	
③ フードバンク寄付	フードバンク事業に対する寄付	
④ 年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで	
⑤ サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)	
⑥ プレミアム寄付コース	A：SOSを出している人の人生寄り添いコース：50,000円 B：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000円	
とちぎコミュニティ基金会計		
⑦ とちコミ寄付	「とちコミ」への単発寄付	
⑧ 子どもSUNSUN寄付	A:子どもSUNSUN都度寄付 B:子ども食堂応援団 C:子どもSUNSUNメイト D:プロジェクト発起人寄付	
⑨ サンタdeラン寄付	県内の子ども支援団体への寄付。通年募集、12月末締切。	
⑩ 災害等の緊急支援募金	地震や災害などへのボランティア活動寄付（随時）	
⑪ たかはら子ども未来基金寄付	こども・若者の未来を応援するための寄付	
⑫ とちコミサポーター	継続的にとちコミの活動を支える寄付 A：とちコミマンスリーサポーター B:とちコミサポーター C:とちコミ団体サポーター	
⑬ じぶん基金	寄付者のお名前や助成目的を冠した特別枠のファンド	
⑭ 遺贈・生前贈与	栃木の未来に思いを託す寄付	

(3) 事業収入

受託事業収入は477万円と前期より11万円減少した。また助成金は1,227万円と前期より204万円増加した。バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。本会の存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなどの努力が必要である。

(4) 組織

① 会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は5月26日に実施した。

定期会員総会は121人出席（うち委任状109人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月19日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

① 来年どうするか会議（創出会議）

開催しなかった。

① 理事会

理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
5/25 監査	君嶋、菊池
5/22 第1回理事会	2023年度事業報告・決算について /矢野、柴田、荻津、飯島、荻津、塚本、佐藤
12/17 第2回理事会	① 上半期の事業報告について /矢野、荻津、柴田、阿久津、徳山、塚本
3/31 第4回理事会	① 2025事業計画・予算について /矢野、荻津、中野、柴田、塚本、徳山、松葉

② 職員会議・ケース検討会

第2・4水曜10時から、職員会議を毎月2回開催した。うち1回は運営委員会とした。ケース検討会は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面とオンライン(zoom)でも参加できるようにしている。

●運営委員会・職員会議	4/10、4/24、5/8、5/22、5/29、6/12、6/26、7/10、7/24、8/7、8/21、9/11、9/25、10/9、10/23、11/13、11/27、12/11、12/25、1/15、1/29、2/12、2/26、3/12、3/26
●ケース検討会	4/3、4/17、5/15、6/5、6/19、7/3、7/17、7/31、8/14、9/4、9/18、10/2、10/16、11/6、11/20、12/4、12/18、1/8、1/22、2/5、2/19、3/5、3/19

(5) チームの会議・活動日

① 新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱

毎週水曜日13時から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在3~4人。

② フードバンク会議

第1,3木曜13:00から会議を行った。第2木曜13:00常任理事会、第4

③ サンクスVクラブ(後援会)

今期は実施しなかった。

サンクスVクラブは年間2万円以上の寄付をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが高齢化のため参加が少ない。年2回の定例会(親睦会)を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。

<p>サンクス”V”クラブ 会則 2005年7月30日</p> <p>(第1条) 本会はサンクス”V”クラブと称する。</p> <p>(第2条) 本会の事務局を宇都宮市塙田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。</p> <p>(第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。</p> <p>(第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p>	<p>1. 寄付に関すること</p> <p>2. クラブ員の親睦に関すること</p> <p>3. その他、目的達成に関すること。</p> <p>(第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。</p> <p>(第6条) 本会に次の役員を置く。</p> <p>〔1〕 代表 1名</p> <p>〔2〕 副代表1名以上</p>	<p>〔3〕 会計 1名</p> <p>(第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。</p> <p>(第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。</p> <p>役員名簿</p> <p>代表:高橋昭彦さん 副代表:高木敏江さん 会計&事務局:菊池順子</p>
--	---	---

監査報告

2024年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2025年 月 日 監事

監事